



# あゆみ

No. 168

令和 4年12月14日発行

編集 発行：社会福祉法人 啓明会 苓山寮・第二苓山寮  
〒863-0006 熊本県天草市本町下河内680  
TEL 0969-22-5339・0969-22-1766 FAX 0969-22-5090  
E-mail reizanryou@miracle.ocn.ne.jp・reizan2@muse.ocn.ne.jp  
社会福祉法人啓明会ホームページURL <http://keimeikai.amakusa-web.jp/>  
施設の旬の話題を「レイザンTOPIX」にて更新中です。



◀まもと障がい者芸術展に出品された皆さんです。どの作品も素敵です。

## 「第三者評価を受審して」

施設長 鮎田 一夫

今年も残すところ二週間になりました。今年は一月、二月に相次いで利用者さんが亡くなったり、五月には新型コロナウイルスによる集団感染を経験したりと、辛い事が結構あった年でした。職員のストレスも大きかったと思います。しかし多くの方に支えられて無事に今年を終えられそうです。本当にありがとうございます。

平成二九年度に第三者評価を受審してすでに今年度は五年目なので、二回目の受審をしました。前回の受審結果は支援については良い評価をいただきましたが、その他は決して良い評価ではありませんでした。そこで、b、c評価だった項目については、担当者を決めて一年から三年をかけて改善をしてきました。今回の受審はその改善が地に着いたものになっているかどうかを知るためでもありました。結果は前回に比べかなり良い評価をいただきました。特に前回、施設の理念が職員に浸透していないと指摘されたことについては、施設運営の根幹に関わることでありますから、抽象的な理念を具現化するために七項目の方針を定め、毎年の重点目標をその方針にリンクさせ、各セク

ションに落とし込むようにしたことでもかなり改善されてきたことが評価され、aをいただきました。その他、前回不備を指摘された文書類についてはほとんど改善されました。ただ、今回の第三者評価は前回と内容が少し変わってきていて、前回多かった支援内容についての項目は大幅に減っていました。評価の高かった支援の部分を細かく評価されなかったことは、多少残念です。

これを書いているとき、保育園や乳児院、障がい者施設での虐待、不適切な対応のニュースが次々と入ってきて胸が痛みます。第三者評価は閉鎖的な施設の中に他人の目が入り、自分達がしていることを客観的に見ることができる貴重な機会です。またここでは年二回、第三者委員四名と家族代表二名の方を加えた虐待防止委員会、苦情解決委員会を開き、具体的な事例について検討を行っています。虐待やそれに繋がる行為を防ぐためには外に開かれた施設にすることが第一歩です。今後も第三者委員や御家族のご意見、第三者評価受審等を通してより良い施設になるよう努めていきたいと思えます。

最後になりましたが、関係者の皆様には今年も大変お世話になりました。良いお年をお迎えください。

## サービスの現場より

『この一年を振り返って』

第二苓山寮副施設長 鮎田 公博



令和四年、今年は新型コロナウイルス感染症に明け暮れた一年でした。施設では感染することがないように利用者の健康と安全の確保に努めて参りましたが、残念ながら六月にはクラスターとなってしまいました。この一ヶ月の間、職員も汗だくになりながら感染拡大の防止に努めました。二人中三人とほぼ全員の方が感染してしまいました。ご家族や関係者の皆様には大変ご心配をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。この新型コロナウイルス感染症の抗体は三ヶ月程度で効力をなくすので、今後再び感染する危険性があります。このためワクチン接種を勧めており、今月には五回目の接種を予定しております。

さて私共のような障害者施設ではひとたび誰かが感染しますとその拡大防止は極めて困難であることが改めて痛感させられました。私共も日頃から外部との接触は極力避けて施設に持ち込まないように努めて参りましたが、これを完全に防止することはほぼ不可能と言っても過言ではないと思っております。利用者の皆様にも自粛をお願いしてきましたが、先月から年末年始にかけての帰省や外食なども少しではあります。元の生活に戻るようには考えております。長期間の不自由な生活ではありませんが、少しずつでも従来の生活を取り戻せるように私共も努めて参りますので、ご家族、関係者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

『担当利用者さんへの取り組み』

苓山寮支援主任 鮎田 祐介



今年度から担当させて頂いているSさんは担当意識が強すぎて、担当に対して素直に自分を表現出来ない方で、私のアプローチも無視をされコミュニケーションが全く取れません。Sさんは、職員のデスクマットに挟んである計画書等の情報を得て他者に伝える行動があります。又、担当の机は必ず確認しているため、それを利用してSさんの名前を大きく書いた本人専用の日程計画書を挟んでいたところ、他の職員に「担当の机に置いてあるのは何ね」と何度も尋ねられ、気にされている事が分かりました。その機に話し掛けると応じてくださり、日程の説明を通してコミュニケーションが図れるようになりました。又、Sさんが苦手な集団健診については、より詳しく分かりやすいSさん専用の計画書を作成し個別に伝える事で「分かった、一人で出来ます」と見通しが立ち、それが自信と安心感に繋がり、結果検診もトラブル無くスムーズに受診する事が出来ました。

今後も個別の計画書作成等「字を読む、他者に伝える」というSさんのストレングスを活かした支援を行う事が大切だと考えています。そのことで、Sさんが自信を持って行事や活動に参加でき、ひいてはそれが充実した楽しい生活に繋がるよう支援していきます。

『担当利用者さんへの取り組み』

第二苓山寮支援員 鶴田 浩隆



私が担当させて頂いているYさんは普段からよく笑われており、笑顔がとても素敵な方です。現在七七歳と高齢ですが、ご自分の持ち物に対する記憶が非常に優れておられます。そのため、自分の洗濯物がない時には不安を感じてしまわれますが、見つかると笑顔で「ありがとうございます」と話して頂きます。

加齢とともに少しずつ体の動きも鈍くなられてきています。今後さらに身体機能の低下が予想されますので、毎日少しずつでも体を動かして頂けるよう、棟内で腕の曲げ伸ばしや歩行活動などに取り組んでいます。ご本人は陶芸活動や塗り絵を好まれています。職員から「歩きましょうか。」と声を掛けると、すぐに準備をして下さいます。ご自身の好きなことばかりをやりたいとの気持ちもあり、時には歩行を拒否されることもあります。今後はコミュニケーションを図りながら、毎日の運動を一緒に行っていこうと思います。いつもYさんは職員の声掛けに対しても冗談で返されたりして、非常にユーモアがある方です。そんなYさんと共に、職員も笑顔で元気に生活出来るよう、今後も努めて参ります。



## 地域より

本町にお住まいの磨田様よりご投稿いただきました。



『今までありがとう、これからもどうぞよろしく』

寺領地区サロン代表 磨田 敦男

私は若いころから「焼物」に興味を持ち、余暇時間を利用して中央公民館の焼物教室に加入して、作陶の出来映えを楽しみに手を動かし、作品ができた時は感動したものでした。定年退職を機に「苔山寮の焼物教室」に加入し、短時間で手間のいらぬ大きめの皿を作りました。これまでの作品は山のようになり、ここ数年は貰っていただけの方々にあげるようにしています。その間、施設長や先生方のご配慮で、月二回の教室と「一日研修旅行」や「忘年会」なども実施し仲間づくりをしてきました。

又、地域活動として「いきいきサロン」の計画、実施にもご協力をいただいております。特に地区の老人会で毎月一日に実施する鈴木神社の清掃活動にも参加しご協力を頂いております。このような苔山寮の「地域に密着した活動」に対して、地域の皆さんからも感謝されています。

コロナ禍にあり、地域社会などではまだ活動の制限もあって思うように行動ができませんが、三十年続いた「焼物教室」も新しい仲間を迎えて復活させたものです。私も苔山寮の行事等にも出来るだけ協力したいと思っております。物心両面にわたる協力を感謝します。今後ともよろしくご指導をお願いします。



焼物教室参加者の作品



あみだ巻サロンの様子



毎月1日、鈴木神社清掃



『グループホームより』

GHサービス管理責任者 橋口 敬

現在、第二苔山寮には四ヶ所のグループホームがあり、今年度は二六名の方が利用されています。その内の十五名の方は企業や就労継続支援B型事業所などで仕事に従事され、残りの方達は第二苔山寮の日中活動に参加する等して生活されています。

利用者の方の平均年齢は四六歳位ですが、今年度八十歳を迎えられる方が三名、七五歳を超えられた方が二名、年が明けたら七十歳になられる方が一名とグループホームにおいても高齢化が進んで来ています。機能低下や筋力の衰えにより、介助が必要になって来た方、持病なども伴って体調不良を訴え入院するような方も見られるようになって来ました。近い将来、介護が必要になり、グループホームでの生活が難しくなってくる方も出て来られると思われるかもしれません。一時的に介護が必要になった方が出た場合、苔山寮や第二苔山寮の職員の方達の助けを借り、現状を乗り切っています。将来的な事を考えると、早目に次の生活の場所への移行が必要だと思われれます。御家族の方達もその事をとても心配されており、関係機関等から情報を貰い手続きをしている段階ですが、なかなかそういった高齢者施設等への移行は待機者が多く、金銭面に於いても難しい部分があり、行き詰っているのが現状です。他にも利用者の方達の健康面や就労、清潔面や生活習慣の見直し等といった課題は沢山ありますが、グループホームに於いて優先的に取り組む課題の一つだと思われれます。



# 苓秋祭・収穫祭

10月25日、苓山寮

10月26日、第二苓山寮

祭りでは色々な食べ物や飲み物をゆっくりと堪能して頂きながらカラオケ大会、的当てなどの催し物を行いました。的当てでは多くの利用者さんが的に上手にボールを当てられ、景品をもらおうと皆さん大変喜ばれていました。又、カラオケ大会では自分の持ち歌をたくさんの観客の前で上手に歌って下さいました。歌の最中に大きな手拍子が起こり始め、歌に合わせて踊ってくれる利用者さんもいて大いに盛り上がりました。

コロナ禍の中、久しぶりに開催出来たお祭りでしたが、利用者さんの笑顔もたくさん見ることが出来「楽しかった、面白かった、美味しかった」などの感想もたくさん頂きました。



中村 由佳里さんが  
曲に合わせて得意の  
踊りを披露して下さい  
ました。

仲良しの  
みなさんです。  
(^\_^)V(^\_^)V



いただき  
ます

最後はみなさん  
自然と立ち上がり踊って下  
さいました。





# テイクアウト外出

荇山寮



十一月に西の久保公園でテイクアウト外出に出かけました。久しぶりの施設外での食事の為、皆さんとても喜んでおられました。食事の際は、「うまかー」や「いいね」と歓喜の声が上がリ、殆どの方が完食され、皆さん笑顔でした。ある人は、遊具に興味津々で「やってみる」と時間一杯遊具で遊ばれ「楽しかった」と満面の笑みを浮かべる方もいました。

また、別のグループでは、鬼池港までドライブに出かけました。港では、船を眺めたり、サンタのオブジェに座り写真を撮ったりと楽しんでいました。コロナ禍で沢山の規制や我慢をして頂いた皆さんの良い気分転換になった外出でした。



天草町の西平橋公園に夕陽見学に行きました。

当日は曇ったり、晴れたりと天候が不安視されましたが、夕陽が沈む時間になるとパッと視界が晴れ綺麗な夕陽を見ることが出来ました。見学に参加された利用者からは「凄く綺麗」「初めて海に沈む夕陽を見ることができて嬉しい」等の意見が聞かれ、カメラを持参した方は何枚も写真を撮られていました。中々夕方時間帯に出かけることも少なく利用者の方にとってはいい思い出になったかと思えます。来年度も要望があれば利用者の方と楽しみを共有していければと思います。

## 大ヶ瀬の夕日ツアー

11月10日・第二荇山寮





## 【第十八回天草大陶磁器展】

苔山寮支援員 森野 謙一郎

十一月二日～六日（五日間）天草市民センターにて開催されました。当施設はコロナの影響で三年ぶりの参加となりましたが、県内外から九二窯元が出店、入場者数一万三千人程来場。県内最大級の陶器市となり盛大に開催され、行政や地元窯元でつくる実行委員会でも話し合いを行いました。天草の宝である天草陶磁器がさらに光り輝くように、又、施設「苔山焼」の作品を見て触れて頂く事で施設の理解をして頂けるように、今後も利用者と共に、やさきもの活動に取り組んで行けたらと考えています。



## 【創立記念日の手作りお弁当】

苔山寮管理栄養士 長嶋 さおり

十一月十六日は、当施設の五五年目の創立記念日でした。五五年目ということもあり、いつもより大きいお弁当箱に詰めました。中は、にぎり寿司、煮しめ、牛肉の野菜巻き、蓮根のすりみ揚げ、ぶりの照り焼き、蒸し鶏のソースかけ、がね揚げ、胡瓜と山くらげの中華和え、抹茶ケーキでした。吸物を付けて提供しました。久しぶりのにぎり寿司に皆様大喜びしてください、日頃食の細かい方でもほとんど残さず食べてくださいました。ミキサー食やムース食の方用ににぎり寿司も作り、楽しんでいただきました。



## 日常生活の風景

赤星 信一さん



赤星さんは現在七一歳、寡黙な方で周りの様子を物静かに眺めながら、時折「うん、うん。」と何かを見つけたように笑顔を見せてくださいます。また、スタジオジブリの音楽が大好きで、特に「さんぽ」は大のお気に入りであり、日中活動で取り組まれている棟内歩行でこの曲が掛かると、嬉しそうに鼻歌を披露しながら歩かれています。今後とも元気に「さんぽ」して頂けるよう支援したいと思います。

赤藤 元一さん



「GHかなで」で生活され、日中は第二苔山寮の生活介護へ通所されています。日中活動での実習地作業や墓所清掃等では生き生きと力を発揮され、職員からも「赤藤さんがおらすけん、捗ります」等の声もあり、ご本人もやりがいを感じておられます。

コロナ禍の生活も長くなり、大好きな「イカ釣り」が中々出来ていませんが、ストレッチ発散できるよう、一緒に潮見表を見て昔よく行かれていた楠浦の海へ釣りに出掛けたいと思います。

## 行事予定

十二月

二三日 クリスマス会

二六日 餅つき（オーブンカマエ）

二九日 御用納め

二〇二三年

一月

四日 御用始め

十一日 ポータブル胸写検診

十三日 鬼火焚き

二四日 第五回管内研修



## 編集後記

早いもので今年も残りわずかとなりました。最近の話題では、現在開催中のサッカーワールドカップで日本代表が強豪チームに勝利し日本中が大変盛り上がりしました。また、新型コロナウイルスは第七波がやっと落ち着いたかと思ったら、第八波が世間を騒がせています。施設の方ではワクチン接種と感染対策をしっかりと行いながら皆さん過ごされています。施設内のイベント等も少しずつ実施出来ており、十月の苔秋祭では皆さん大いに盛り上がり、大変喜んでいただいたようでした。まだまだ新型コロナウイルスが心配ではありますが、来年は今年よりもっと楽しい日々になるようにと願っています。

